

筑田周一作

走れ！新聞部！

女子聖学院中学校演劇部

キャスト

相川藍

河野夏帆

笹倉清香

高田環

名倉奈央

林春香

松田舞友

高田千明

山本弥生（クロス）

相川藍

昔の人は言った。

河野夏帆

犬が人をかんでもニユースにはならない。

笹倉清香

人が犬をかんだらニユースになる。

相川藍

犬（高田環）登場。相川藍に甘える。
よしよし。

相川藍

犬、甘えて相川藍を軽く噛む。
あはは、くすぐったいよ。

相川藍

犬、さらにはしゃいで軽く噛む。
やったなあ、こいつ！

相川藍

相川藍ふざけて犬を噛む。犬悲鳴をあげて相川藍を強めに噛む。
いてえっ！

相川藍

相川藍、犬を突き飛ばす。間。
あー、血が滲んてる。

相川藍

犬、鼻を鳴らして近づく。かんだところをペロペロ舐める。
よしよし。

相川藍

犬、相川藍に恭順の姿勢を見せる。
よしよし、いい子だ。

相川藍

犬、なでられていい気分。
と見せかけて、喉笛ガフリ！

犬、暴れる。しかし、相川藍すっかり噛み付いて離れない。やがて、犬、痙攣して動かなくなる。

相川藍

ごめんよ、パトラッシュ。でも、僕は生きなきゃいけないんだ。シャキーン！
手にナイフを持ったつもり。

相川藍

まずは温かい内臓からいただくよ！ザクリ！ギギギ、お腹を十字に切り開いてと。
犬、切り裂かれる瞬間ビクッと跳ねる。

相川藍

いただきます。

夏帆・清香

ちよっと待て！

相川藍

はい？

河野夏帆

何そのスプラッターな展開。

笹倉清香

なんなの、パトラッシュって！

相川藍

チャウチャウ犬のパトラッシュ。赤犬は美味しい。

河野夏帆

食うなよ。

笹倉清香

殺すなよ。噛み付くところでやめとけて。

相川藍

いや、噛み付いただけだと逆に噛まれるし。だから先制攻撃です。

河野夏帆

噛まれたら、逃げるよ、犬だって。

笹倉清香

犬が去ぬ。

笹倉清香

問。

河野夏帆

いや、犬が、行っちゃったー！去ぬく！

高田環

いつまで寝てんの。

笹倉清香

犬が寝ぬ。

笹倉清香

この場合は、寝ている、という意味で「寝ぬ」ね。

河野夏帆
清香・環
相川藍
笹倉清香
河野夏帆
高田環
相川藍
河野夏帆
藍・環
河野夏帆
笹倉清香
相川藍
河野夏帆
高田環
相川藍
高田環
相川藍
高田環
相川藍
高田環

やめる。
はい。
面白くないよ。
グサッ。
で、誰が考えたの、これ？
あ、はい。
二人で。
記事にならないでしょ。
ダメですかあ？
ポツ。
捏造じゃん。
創作と呼んでくださいよ。
新聞は事実を伝えるのが使命なの。
じゃあ、せめて連載小説ということ。
題して「フランダースの赤犬」！
少年ネロは、チャウチャウ犬のブリーダー。
違法に子犬を産ませ続ける彼はなぜ、悪の道に走ったのか？パトラッシュ！
ワン！
さあ、子どもをこっちに渡すんだ！
チャウチャウ！

相川藍 (すがりつこうとする犬を蹴倒す) ふっふっふ、こいつらをネットで高く売り飛ばして大儲けだあ！

高田環 チャウチャウ！

相川藍 お前はまた子どもをうむんだ！

高田環 チャウチャウ！

相川藍 しまった、インターポールに嗅ぎつけられた！捕まってたまるか！

高田環 バトラッシュ、来い！

相川藍 ドキュメンタリータッチで描く異色の問題作！

高田環 「フランダースの赤犬」！

河野夏帆 却下。

藍・環 えー？(大いに不満)

河野夏帆 連載小説を載せるほど連続で新聞出せないの。

笹倉清香 弱小新聞部だからねー。

相川藍 今年の予算っていくらなんですか？

河野夏帆 三〇〇〇円。

高田環 え、それだけ？

相川藍 でも、うまい棒なら300本買えますよ。

笹倉清香 印刷用の紙を買ったら、一回で消えるね。

高田環 え、一回だけ？

河野夏帆 壁新聞にすれば、回数は増やせるけどね。

相川藍 字が下手なんで、壁新聞はちよっと。

河野夏帆

パソコン使えるの？

相川藍

いや、キーボードはちょっと。

河野夏帆

じゃ、どうすんの？

高田環

相川藍、スマートフォンを出す動作。シリを起動する。

高田環

ご用件はなんでしょう？

相川藍

音声入力。

高田環

よく、わかりません。

笹倉清香

音声入力じゃ時間かかるでしょう。

相川藍

じゃあ、僕がしゃべって。

高田環

私がタイプして。

河野夏帆

できるの？

高田環

こう見えても、ワープロ検定8級です。

笹倉清香

8級ないから。

高田環

ブラインドタッチですらすらくって。

河野夏帆

やってみ。

高田環

高田環、メモ帳と鉛筆を取り出す。

笹倉清香

どうぞ！

高田環

口述筆記だから。

夏帆・清香

目、つぶってます。

夏帆・清香

意味ないだろ！

相川藍・高田環、片隅によって小声で相談。

きつとブラインドの意味が違うんだよ。

ああ！

わかった？

任せて。シャーシャーシャー（ブラインドを下ろすマイム）

ブラインド、タッチ！

ME「太陽に吠えろ、ボス、愛のテーマ」イン。相川藍、ワイングラスを揺らしながら、ブラインドの隙間に指をかけて、外を見るマイム。

ジーパン、この駒込という大都会に、今日も多くの人が生きている。俺たちは命をかけて、その人たちの生活を守らなくてはいけないんだ。いいな。

ボス！

ME「太陽に吠えろ」のテーマ高田環、颯爽とかけいくマイム。見えない敵をバツバツと倒すマイム。

おい、もう大丈夫だ。さ、それを渡せ。

銃声。膝をつき、腹に手を当てる。そしてその手を見る。

なんじゃ、こりゃー！

あ、ごめん、お腹縫ってなかった。

またそこかい！

はっはっは。相変わらずの三文芝居。くさいくさい。

名倉奈央林春香松田舞友入ってくる。

新聞部の看板下ろして、演劇部にしたらどう？

林春香

名倉奈央

夏帆・清香

相川藍

高田環

高田環

高田環

相川藍

相川藍

高田環

相川藍

高田環

松田舞友

ただし、頭に「くさい」ってくつつくけどね。

河野夏帆

報道委員会！

笹倉清香

何のようですか。

名倉奈央

おい。（松田舞友に）

松田麻友

はっ！

松田舞友、手に持っていた生徒会の機関紙を4人に渡す。

笹倉清香

「中里中学校ジャーナル アドレナリン」？

名倉奈央

新聞部さんが発行していた新聞の名前ってなんだっけ？

河野夏帆

過去形にすんなよ。「中里中学校新聞」に決まってるだろ。

名倉奈央

そうそう、略して「なかちゅう新聞」。でもみんな「なかなか新聞」と呼んでいた。

林春香

なかなか発行しない新聞。

松田舞友

4月に発行してから、一ヶ月。連休に入っちゃうんですけど？

笹倉清香

それは予算の都合で仕方なく。

名倉奈央

でも、「スカスカ新聞」とも呼ばれてるんですけどー。

林春香

中身がスカスカ。

松田舞友

問題の新入生歓迎号。何これ！？紙面の半分が漫画？

河野夏帆

みんなに親しみを持ってもらおうと思って。

林春香

残りの半分は？今後の予定？

松田舞友

小学生の学級新聞以下。

林春香

新聞の折り込みチラシ以下。

松田舞友

鼻をかむ気にもならないから。

名倉奈央

なかなか新聞は、我が中里中学校の恥さらし。そこで！

林春香

我々報道委員会は決意した。

松田舞友

中里中学校の言論は、我々報道委員会が守る！

名倉奈央

今回、生徒会機関紙をリニューアルし、中里中学校のあらゆる情報を網羅した総合新聞として発行することにした。

林春香

つまり。

松田舞友

なかなか新聞はもういらぬ。

名倉奈央

生徒会の予算を使う以上、本当に生徒が必要としている情報を、

林春香

素早く

松田舞友

手元に

名倉奈央

確実に、提供することを使命として、「中里中学校ジャーナル アドレナリン」を毎日発行することを宣

新聞部員たち

言する。

名倉奈央

毎日！？（手に持った紙面に目をやる）

林春香

ジャーナリズムがどういうものか、君たちにみせてやろう。

松田舞友

そして、新聞部の部室、

名倉奈央

印刷機、

河野夏帆

その他もろもろ一切を報道委員会に明け渡すことを要求する。

笹倉清香

そんな無茶な！

部活動は有志によって行われるれっきとした生徒会の活動の一環だよ。

相川藍
そうだよ。な。

高田環
うん。

名倉奈央
次の新聞の内容次第で、臨時生徒総会を招集する。

林春香
新聞部の廃部を提案するから。

相川藍
じゃあ、発行しなければいいんだ！

高田環
なるほど！

夏帆・清香
アホ！

林春香
悔しかったら、なかなか見所がある新聞を発行するんだね。

松田舞友
なかなか難しいだろうけど。

河野夏帆
受けて立つ。

名倉奈央
へえ。

河野夏帆
その代わり、次の新聞の内容がよかったら、新聞部が定期的に新聞を発行できるように、報道委員会は協

力すること。

林春香
できるわけではない。

松田舞友
そうそう。

河野夏帆
そうかな。レスターシティがプレミアリーグで優勝するのを、誰も信じていなかった。

笹倉清香
5000倍のオッズがひっくり返ったんだよ。

相川藍
そうだ、世の中に不可能はないんだ。

高田環
そうだそうだ。

名倉奈央
いや、あなたたちの場合、万が一にも無理だ。

河野夏帆	無理かどうか、きっちり証明してみせるさ。 対決のシーン。音楽。照明盛り上がり。 報道委員たちが去ると、そこはお好み焼き屋。お好み焼きを焼く高田環。 (アドレナリンを見ながら) 報道委員は各クラスに2名。 報道委員会の活動費用は10万円。
笹倉清香	うまい棒1万本?とても食べきれないなあ。
河野夏帆	お好み焼きにうまい棒乗っける?
相川藍	いいねえ。コンポタ味にして。
高田環	了解。
相川藍	焼きあがったお好み焼きを切り分けてそれぞれの皿に乗せるマイム。 (食べながら) アドレナリンってどういう意味?
河野夏帆	創刊号に書いてある。
相川藍	(記事に目を通すが) 保健体育苦手なんだ。
笹倉清香	要するに、学校生活に刺激を与えて、活性化させるってこと。
相川藍	なんか、格好いいね。
高田環	うん。
相川藍	うちも格好いいのにしようよ。
高田環	松岡修造!
相川藍	あ、それいい!
相川藍	相川藍、高田環「できる、できる」と歌い始める。

笹倉清香

で、どうする？

河野夏帆

当然、受けて立つ。

笹倉清香

勝算は？

相川藍

やっぱり、生徒全員がびっくりするような大スクープを狙うしかないね。

河野夏帆

毎日の学校生活の中に、そんなスクープがあるわけないでしょう。

笹倉清香

学校に来て、授業受けて、部活やって、塾行って、家帰って。その繰り返し。

河野夏帆

スクープなんてないよ。

相川藍

なければ、作ればいい。

高田環

どうやって。

相川藍

ジャン！（白いハンカチを取り出す）これを使って。

高田環

学校の廊下のシーン。相川藍が高田環の前を歩いている、とハンカチを落とす。

相川藍

（ハンカチを拾い）君、ハンカチが。

藍・環

あ、すいません。

藍・環

手と手が触れ合う。

藍・環

あ。

藍・環

恥じらう二人。

高田環

君、1組の相川藍ちゃん、だよな。

相川藍

どうして私のことを。

高田環

それは、あの……。

相川藍

嬉しいな、サッカー部のエースが名前覚えていてくれたなんて。

高田環

あの、これから部活なんだけど、よかつたら、待っててくれないか。

相川藍

え？

高田環

あ、いや、忙しいよね。そうだ、俺、いきなり何言っただ。あはは。ごめん、忘れて。

相川藍

ううん。待ってる。

高田環

本当！

相川藍

うん！

高田環

(密かにガッツポーズ) あー、今日は暑いなあ。(ハンカチで汗をふく)

相川藍

あ。

高田環

え？(あわてて) ごめん！洗って返す。

相川藍

いいよ。

高田環

よくないよ。ちゃんと洗って返すから。(ハンカチをポケットにしまう)

相川藍

ありがとう。

高田環

じゃあ、校門のところで待ってて。

相川藍

うん。

高田環

じゃ！(軽やかに走り去る)

相川藍

というやりとりを隠し撮りしておいて。

高田環

「サッカー部エースわいせつか？」

相川藍

「女子生徒のハンカチを盗んだ疑い？」

高田環

この場合、あくまで断定しないところがポイントね。

相川藍

ターゲットはサッカー部、バスケット部、バレーボール部のエース。

高田環

あとは女子に人気の先生ね。

相川藍

次々と生まれるスクープ！

高田環

これで、「なかなか新聞」の人気は急上昇！

河野夏帆

二人ともそこに座れ。

藍・環

え？

笹倉清香

いいから座れ。

二人、床に正座。

河野夏帆

そんな三流ゴシップ雑誌のような真似して、恥ずかしくないか。

藍・環

はあ。

河野夏帆

よくわかっていないようだから、言うけれど、新聞部の使命は単に素早く手元に確実に届けるだけじゃないの。

笹倉清香

そう。何よりも正確に、ということが大事なんだ。

河野夏帆

それを忘れたら、ダメ。

笹倉清香

真実とは何か、それを追求してこそ、本当のジャーナリズムと言えるんじゃないかな。

相川藍

でも、人が犬を噛まないとニュースじゃないって。

高田環

うん。

河野夏帆

やらせじゃダメなんだよ。

笹倉清香

人が犬をかんだという事実と、なぜそういうことか起こったのか、その背景まで取材して明らかにしてこそ、報道の意味があるんだ。

河野夏帆

わかった？

藍・環

うん……。

高田千明

ただいまー。

高田環

おかえり。

高田千明

よっ、暇つぶし部。

河野夏帆

陸上部は忙しくて大変だね。

高田千明

春は大会が続くからね。

河野夏帆

目指せ、東京オリンピック！

高田千明

よしてよ。

河野夏帆

またまた。自信あるくせに。

高田千明

今は目の前の試合に集中するだけ。

河野夏帆

そしてここにまた賞状が増えていく。

高田千明

やめてくれて言っただけだな。

高田環

ばあちゃん、嬉しいんだよ。

高田千明

環も、陸上続ければ、ばあちゃん、喜んだと思うけど。

相川藍

環が陸上？砲丸投げとか？

高田環

(相川の言葉を遮って) 私はばあちゃんのお店を手伝ってるのが楽しいの。それより調子はどう？

高田千明

まあまあかな。後輩たちも頑張ってるし。

河野夏帆

今度練習に、取材行くから。

高田千明

おう、よろしく。

高田環

お好み焼き食べる？

高田千明

全部のせて。

高田環

了解。

高田環、お好み焼きを焼き始める。

高田千明

ばあちゃんは？

高田環

神経痛がでたって奥で休んでる。

高田千明

食ったら手伝うから。

高田環

ありがと。

河野夏帆

おばあちゃん、具合悪いの？

高田千明

ちよっとね。

高田環

もう年だから。

相川藍

そんなこと言ったら、叱られるよ。

笹倉清香

そうそう。去年取材した時も、年寄り扱いするな、ってね。

高田環

ばあちゃん、口悪いから。

高田千明

でもばあちゃん、うれしかったって言ってたよ。被爆体験をきちんと記事にしてくれたって。

笹倉清香

みんなにわかってもらいたくて、マンガにしたんだけど、なんか報道委員にバカにされちゃってさ。

高田千明

いやいや、あのマンガ、泣けた。

高田環

そうそう。肉親だからじゃなくてマジで。

河野夏帆

今、考えるとき、オバマ大統領が広島にきたり、結構話題になってるじゃん。

笹倉清香

時代をリードしてたんだよね。

河野夏帆

だからさ、今までやってきたことを信じてやれば、大丈夫。

笹倉清香

うん。

河野夏帆

じゃあ、今度の紙面のメインは、陸上部の大会の様子にしよう。

高田千明

お、うれしいなあ。

夏帆・清香

頑張っつて。陸上部のエース！

高田千明

ベストを尽くします。

実況中継

さあ、五月晴れの空の下、大会が始まります。各中学校の鍛え抜かれた選手たちが各種目で競い合います。実況の間に場面は陸上競技場に。

相川藍

いい天気だなあ。

高田環

ピクニック日和だねー。

相川藍

あれ、部長たちは？

高田環

部長くここですよ！

夏帆・清香

他人の振り。

相川藍

どうして無視するんですかあ？

高田環

ひよっとして、照れてる？

名倉奈央

報道委員やってくる。

林春香

相変わらずの能天気。

松田舞友

取材に来たっつていう意識ゼロ。

名倉奈央

ま、これで廃部は確定だけどね。

相川藍

自業自得っつてことね。

相川藍

へーんだ。

高田環

ここからなら、スタートもゴールも一番よく見えるからね。

相川藍

ほらほら、取材の邪魔。あっち行って。

名倉奈央

ふん！場所がよくなったってピクニック気分じゃ取材はできないし。

高田環

取材の準備だってちゃんとしてるもんね。はい。双眼鏡。

相川藍

はい、カメラ。

高田環

はい、取材対象。

高田千明

千明、部員（山本弥生）を引き連れてやってくる。

高田千明

よっ！

高田環

予選突破おめでとう。

高田千明

応援サンキュー。

笹倉清香

100メートル走、予選を1位通過、コメントを一言。

高田千明

サポートしてくれているマネージャーや後輩たちのおかげだね。今、チームとしてとてもいい雰囲気なんだ。それが好結果につながっている。

高田環

決勝に向けて抱負を一言。

高田千明

仲間を信じて、ベストを尽くします。

高田環

頑張って！

高田千明

おー。

高田千明

千明たち去る。

高田環

いいんですか？ウォーミングアップ始めたら、取材できませんよ。

高田環

報道委員たち、あわてて後を追う。

河野夏帆

よくやった！

笹倉清香

さすが新聞部員！

藍・環

ジー。

夏帆・清香

無視してごめんなさい。

相川藍

ま、いいですけどね。

高田環

ねー。

河野夏帆

なんだろう、この敗北感。

相川藍

あ、いよいよ始まりますよ。

実況中継

さあ、注目の女子100メートル決勝です！

相川藍

いけー！

高田環

しっかりー！

審判の声

位置について。

高田千明

よろしくお願いします！

足の位置を確かめる千明。クラウチングスタートの姿勢になる。ピタッと形が決まる。

一瞬の沈黙。みんな固唾を飲んで見守る。

よーい。

合図の銃声。湧き上がる歓声。

スローモーション。千明が駆け抜けていく。

歓声沸き起こる。

やったー！

高田環

河野夏帆

優勝だー！

相川藍

千明センパイ！

笹倉清香

ばんざーい！

河野夏帆

よーし、帰ったら記事にするよ！

部員たち

はい！

ストップモーション。

部員たちの輪の中から藍だけが出てくる。藍にあかり。

でも、月曜日の朝、校門で新聞を配っていたのは、報道委員会だった。

相川の手にな倉がニヤニヤしながら、号外を手渡す。

ご協力ありがとう。

藍、手にした号外に目を通し、読み上げる。いつの前にか、部員たちも一緒に覗き込んでいる。

「陸上部エース、高田千明さん100メートル優勝！」

「支えてくれた部員たちのおかげ」

「謙虚なエースの快進撃は続く！」

やられた！

僕たちが取材していたのを盗み聞きしてたんだ。

なんて卑怯なの？

うちも対抗して出そう！

取材のメモはちゃんと準備してます。

もっと詳しくお姉から聞いたことを書きましょう。

笹倉清香

早いだけが新聞じゃない。質の違いを見せつけてやろう。

相川藍

それに、こちらの取材をパクったことも書いてやりましょうよ！

高田環

盗み聞きで記事を作る卑怯な報道委員会って！

相川藍

いいね！正義のペンの力を見せつけてやりましょう。

笹倉清香

すぐに取り掛かるよ！

藍・環

はい！

河野夏帆

いや。今回は見送る。新聞の発行は延期しよう。

笹倉清香

夏帆？

河野夏帆

先を越されたんだ。二番煎じにしか見られないよ。

笹倉清香

だけど！

相川藍

人の取材を横取りしたんですよ！

河野夏帆

盗み聞きしたっていう証拠はあるの？報道委員会も競技場に取材に来ていたのは事実だよ。

高田環

だけど、私たちがお姉に聞いた内容と全く同じじゃないですか！

河野夏帆

それだけでは盗み聞きしたことが事実かどうかわからない。

ここに書かれていることは、昨日の大会の表面的なことだけでしょ。

千明が優勝したことは、取材しなかったってわかるし、部員たちが支えてくれてるのだから、部員たちの様子を観察してればわかるし。

僕の取材が不十分ってことですか？

相川藍

あなたの取材はこんなもんじゃないことはわかっている。

河野夏帆

え……。 (逆にうろたえる。メモを見直す)

相川藍

え……。 (逆にうろたえる。メモを見直す)

河野夏帆

とにかく、陸上部の取材は続行しましょう。環、千明だけじゃなくて、有望なメンバーをピックアップして。

高田環

はい！

笹倉清香

他の部の大会情報とか、できるだけ集めてみる。

河野夏帆

頼んだ。

笹倉清香

了解。

相川藍

えーと。僕は。

河野夏帆

千明に密着して。

相川藍

密着、ですね。わかりました。

河野夏帆

よし、いくよ。

部員たち

はい！

決意を込めてうなずき合い、散っていく。

報道委員会登場。センターで女王のように椅子に腰掛け、報道委員たちに命令を下す奈央。次々と「アド

レナリン」を配りまくる委員たち。

林春香

高田千明、陸上の女王！

松田麻友

またも100メートルで優勝！

林春香

野球部快拳！

松田麻友

矢田くんが振り逃げで完全試合阻止！

林春香

試合は5回コールド負け。

松田麻友

初戦突破ならず！

春香・麻友

ざんね〜ん！

松田麻友

バスケット快挙！

林春香

ダブルスコア免れる！

松田麻友

エース和田くんが渾身のスリーポイントシュート。

林春香

2回戦突破はならず。

春香・麻友

惜しい〜！

名倉奈央

ストーップ！

春香・麻友

はっ！

名倉奈央

さっきから聞いてると、結局陸上部以外はダメってこと？

林春香

いえ、バレー部が2年ぶりにメンバーが集まったので、大会に出られることになりました。

松田麻友

テニス部はコートに空いていた穴がモグラによるものだったと判明したそうです。

名倉奈央

だから？

林春香

スポーツは結果ではなく、あくまでもプロセスが大事。バイ春香。

松田麻友

「オリンピックは勝つことではなく、参加することに意義がある。」バイ麻友。

名倉奈央

怒らせたいの？

春香・麻友

滅相ありません！

名倉奈央

学校生活を活性化させてこそそのアドレナリンでしょう？

春香・麻友

はい！委員長のおっしゃる通りです！

名倉奈央

だったら、もっと生きのいいネタを仕入れてきなさい！

春香・麻友

はい！……ただ、最近各クラスの委員から、雑音が聞こえてきまして。

名倉奈央

雑音？どんな？

名倉奈央

春香・麻友顔を見合わせ、お互いに相手に言わせようとする。
怒るわよ？

林春香

……その、新聞記事のノルマがきつい、と麻友が。

松田麻友

(あわてて) ち、違います、私じゃありません、一年生の委員たちです。

名倉奈央

ノルマがきつい？

林春香

私は、全然平気です！

松田麻友

私も問題ありません！毎日記事を書くなんて、朝顔の観察記録みたいで楽しいな。

名倉奈央

(立ち上がる) 夏休みの宿題レベルに面倒だと？

春香・麻友

いいえ！

名倉奈央

麻友！

松田麻友

はい！(直立不動のポーズ)

名倉奈央

私を見下ろすとはいい度胸ね。

松田麻友

(ひざまずき) お父さんのバカー！

名倉奈央

この中学校で一番は？

春香・麻友

委員長！あなたです！

林春香

成績トップ！

松田麻友

メガネの似合う女子第1位！

名倉奈央

自称だけどね。

春香・麻友

いいえ〜！とってもよくお似合いですよ！

名倉奈央

そう？

春香・麻友

はい！

奈央、紙袋からノートを二冊取り出す。

名倉奈央

これ。中間テスト対策ノート。

春香・麻友

おお！

名倉奈央

過去5年間の中間テストの出題傾向と、先生の問題の癖を分析した、完璧な試験対策ノート。

春香・麻友

さすが委員長！天才です！

名倉奈央

これさえあれば、全科目一〇〇点も夢じゃない。ま、当然私は毎回そうだけど。

春香・麻友

素晴らしい！

名倉奈央

欲しい？

春香・麻友

ぜひ！

名倉奈央

だったら、やることはわかってるわよ、ね？

林春香

必ずや、委員長のお気に召す紙面を作ってみせます。

松田麻友

学校中が興奮するような、特ダネを見つけます！

名倉奈央

よろしい。（二人の鼻先でノートをヒラヒラさせると紙袋にしまう）とりあえず、陸上部ネタは硬いから、それをメインにして。

春香・麻友

はい！

名倉奈央

特ダネ、期待してるわよ。じゃ、あとは任せるから。

春香・麻友

ありがとうございます！

林春香

春香と麻友が最敬礼している間に奈央が退場。見送った後、二人ふてぶてしい表情になる。

松田麻友

なにあれ。

林春香

むかつく。

松田麻友

ちよっと頭いいからって調子に乗ってさ。

春香・麻友

内申かかってなかったら、誰がお前の言うこと聞くかって。

林春香

ねー！

何がメガネが似合う女子一位だよ。

松田麻友

報道委員会の席で、「メガネが似合う女子、私だと思ってる人〜！」って無理やり手を上げさせたくせに。

林春香

あのノートさえ手に入れたら、もうあんな奴の言うことなんか聞くもんか。

松田麻友

でも、期末テストはどうするの？

林春香

あーそうだった。結局この一年、頭が上がらないのか。

春香・麻友

はあく。

松田麻友

で、どうする？

林春香

一年生使って、適当にまとめればいいよ。

松田麻友

それで委員長納得するかな？

春香・麻友

うーん。（考え込む）

林春香

なーんてね。

松田麻友

うん？

林春香

簡単よ。

松田麻友

簡単？

林春香

また新聞部のネタをパクろう。

松田麻友

あんたさー、プライドとかないわけ？

林春香

ぜんっぜん。あんたは？

松田麻友

まったく。じゃなきゃ、委員長のご機嫌取りなんてしないし。

林春香

そうだよなー。じゃ、話は早い。早速尾行開始。

松田麻友

了解。

二人が去ると、入れ違いに上手から千明が入ってくる。その後ろにぴったりとくっついて藍がやってくる。

立ち止まる千明。振り返る。ニコニコしている藍。

歩き出す千明。ぴったりにくっついて歩いていく藍。

千明立ち止まる。その様子をそっと物陰から観察する春香と麻友。

高田千明

藍ちゃん。

相川藍

はい。

高田千明

これは何の真似？

相川藍

密着取材です。

高田千明

誰の命令？

相川藍

部長です。

高田千明

夏帆の？

相川藍

はい。

高田千明

授業以外の時間、ずっとこうしてるよね。

相川藍

気にしないでください。

高田千明

気にしないというのは、とても難しいと思うんだ。

相川藍

先輩の視界に入らないように気をつけますので。

高田千明

鬱陶しいんだよね。

相川藍

千明先輩は、とてもシャイ、と。(メモする)

高田千明

トイレまでついてくる気？

相川藍

あ、外で待ってますから。

高田千明

ついてくるのか。 (しゃがみこむ)

相川藍

千明先輩も、時には疲れることがある、と。(メモする)

林春香

なにしてんの？

松田麻友

さあ？

高田千明

うおおお。

相川藍

千明ダッシュで下手に駆け込む。

相川藍

さすが、100メートルの女王！校内でもダッシュのトレーニング、と。(メモする)

相川藍

あ、待ってくださいよ。

相川藍

藍、千明を追いかけて退場。

相川藍

あ、大変。

松田麻友

見失うな！

林春香

春香と麻友も走って下手に退場。

相川藍

と、下手から上手へ千明が走って舞台を横切る。

相川藍

千明センパイ！

藍も追いかけて横切る。

林春香

何なの？

松田麻友

速い！

よろよろと後を追う。

と下手から飛び出してきた藍が二人を吹き飛ばす。

相川藍

うおおお！

春香・麻友

わー！

藍、下手へ駆け込む。ひっくり返った二人もびっくりして藍を見送る。そこへ千明が下手から走ってくる。

春香・麻友慌てて下手へ逃げ込む。

高田千明

……藍、ちゃん？

呆然と立ち尽くす千明。

そこへ夏帆と清香が下手からやってくる。

河野夏帆

千明、ごめん。もう文字通りに受け取っちゃって。

笹倉清香

密着っていうのはそうじゃないって叱っておいたから。

しよげた藍が環に連れられてやってくる。

高田環

ストーカー、連行しました。

相川藍

私は密着しただけで、ストーカーなんて。

新聞部員たち

ストーカーだよ。

河野夏帆

千明に謝んな。

相川藍

千明センパイ……。

高田千明

藍ちゃん！

千明、藍の手を両手でつかむ。

相川藍

センパイ、ごめんなさい、僕、そっちのけはないんです！

高田千明

一緒に走ろう？！

全員

ええ！？

高田千明

フォームはバラバラ、とてもスプリンターの走りじゃない。でも、あんた素質あるよ！

河田夏帆

まさか。

笹倉清香

藍が。

高田環

陸上部から。

新聞部員

スカウト〜！？

相川藍

てへ。

物陰で覗いている春香と麻友。

林春香

ちよっと、すごいスクープ！

松田麻友

すぐに戻って号外発行よ！

春香と麻友、その場から去る。

高田千明

すぐに大会に出場しろとは言わない。でも、これからトレーニングを続けていけば……。

相川藍

(ポーズを決めながら)日本のウサインボルトになれると。

高田千明

いや、そこまでは言わないから。

相川藍

能ある鷹は爪を隠すと言いますが、隠しても隠しきれないこの才能がにくい！

河田夏帆

藍、落ち着け。

相川藍

なかちゅう新聞一筋1年と2ヶ月。醜いアヒルの子だとばかり思っていた僕が、実は白鳥だったんです
え！これからは、ペンをシューズに持ち替えて、東京オリンピック代表に恥ずかしくない成績を残します

！

笹倉清香

藍！

相川藍

夏帆部長、清香副部長、短い間でしたが、お世話になりました。

藍、深々と礼。

高田環

藍ちゃん！

相川藍

環、これからは千明センパイ直属の後輩として、よろしくね。

高田環

新聞部を見捨てるの？

相川藍

はっ！そ、それは……。

高田環

なんのためにお姉に密着していたの？ジャーナリスト魂はどこへ行ったの！

相川藍

ああ、なんて僕は罪作りな美少女、なんでしょう。

高田千明

美少女とも言っていないから。

相川藍

この、溢れる才能がにくい！

高田環

そんなに溢れてるなら、新聞書きながら走ったら？

相川藍

え？

高田環

お姉も言ってたでしょう？今すぐ大会に出場しろとは言わないって。だから、陸上部に体験入部して、その体験を記事にしていいたら？

河田夏帆

それいいね！

笹倉清香

千明はどう？

高田千明

うちは来てくれるんなら、大歓迎だよ。

河田夏帆

あー、でもー、「二兎を追う者は一兎をも得ず」っていうからなー。

笹倉清香

いくら、藍が才能豊かと言っても、新聞部員と陸上部員の二股はさすがに無理か？

藍以外

ね〜!?

相川藍

いいえ！この相川藍、二股の一つや二つ、あるいは四つまたになっても八つまたになっても、見事、やり

遂げてみせます！

河田夏帆

千明、次の大会はいつ？

高田千明

中間テストのあとだから、3週間後。

河田夏帆

よし、じゃあそれまで藍は新聞部特派員として陸上部の活動を体験しつつ、記事をまとめる。

相川藍

了解しました！

笹倉清香

ということは？

河田夏帆

「なかちゅう新聞」第2号は、3週間後に発行する。ただし、途中経過は壁新聞として毎週掲載する。

笹倉清香

よし。報道委員会の鼻を明かすような充実した紙面を作るよ。

部員たち

おー！

軽快な音楽。模造紙を取り出し、壁新聞を作る部員たち。

千明と一緒にトレーニングをする藍。ぎこちない動きだが、必死にくらいつく。

クールダウンをする二人。環がタオルを藍に差し出す。受け取って千明に渡す藍。複雑な表情の環。

その様子を遠くから眺めている報道委員たち。

千明、藍、環上手へ退場。

下手側から奈央・春香・麻友舞台中央へ。奈央の手にはアドレナリン。

名倉奈央

これは一体どういうこと？

林春香

新聞部長があつた陸上部にスカウトなんて、みんなびつくりのスクープで。

松田麻友

おかげでアドレナリンへの注目度もアップしています！

名倉奈央

あんたら、ここ（額をコツコツと叩く）に入っているのは何？

林春香

脳みそです。

名倉奈央

あら、本当？私はずっときりマルコメ味噌でも入っているんじゃないかと思つたわ。

松田麻友

どういふことでしょうか？

名倉奈央

アドレナリンへの注目度がアップした、と言つたわね。

春香・麻友

（自信たっぷり）はい！

名倉奈央

毎日毎日、陸上部ネタ？

春香・麻友

（自信たっぷり）はい！

名倉奈央

確かに、私は言いました。陸上部ネタは硬いからメインにしろと。

春香・麻友

（ニコニコしながら）はい！

名倉奈央

バカか？

春香・麻友

（自信たっぷり）はい！……え？

名倉奈央

廊下に張り出された新聞部の壁新聞、黒山の人だけりかできてる。

林春香

見ました見ました！

松田麻友

華やかな活躍の陰には、毎日の地道なトレーニングがあつたんですねえ。

林春香

私、千明センパイのファンになりました！

松田麻友

藍ちゃんも結構頑張り屋さんだよ。

林春香 いやー、やっぱり千明センパイ。

松田麻友 藍ちゃん。

林春香 千明センパイ！

松田麻友 藍ちゃん！

林春香 千明センパイ！

松田麻友 藍ちゃん！

名倉奈央 馬鹿者〜！

春香・麻友 え？

名倉奈央 毎日毎日アドレナリンで陸上部特集。しかも、メインが高田千明と相川藍。いい？相川藍は新聞部員なん

春香・麻友 だよ？

春香・麻友 あ！

名倉奈央 どうして廃部にしようとしている新聞部の応援を、報道委員会がしなくちゃいけないわけ？

春香・麻友 ど、どうしましょう。

林春香 じゃあ、今までの報道はなかったということ。

名倉奈央 そんなことできるわけじゃないでしょう。

松田麻友 じゃあ、明日から陸上部ネタは一切無しということ。

名倉奈央 それじゃあ、ますます新聞部の方にみんなが流れるでしょう？

林春香 どうしたらいいでしょう？

松田麻友 委員長！

名倉奈央 要するに、新聞部が新聞を発行できなくすればいい。

林春香

なるほどー。で、具体的には？

名倉奈央

生徒会長に連絡して、新聞部が壁新聞を貼れないように規制をかせさせなさい。

松田麻友

はい！

名倉奈央

新聞部の一年生、高田千明の妹だったわね。

林春香

はい。

名倉奈央

あの子をこちらに抱き込む。

松田麻友

可能ですか？

名倉奈央

だから、あんたたちの目はフシ穴というのよ。よく観察してみなさい。あの子は千明と藍が仲良くして

いるのを面白く思っていない。

林春香

そういえば、なんだか微妙な空気が流れていたような

名倉奈央

連れてきなさい。

春香・麻友

はっ！

春香と麻友、下手へ退場。やがて、環を連れてくる。

林春香

高田環さんをお連れしました。

名倉奈央

ご苦労。環さん、わざわざ呼び出してごめんなさい。

高田環

(警戒しながら) どういう御用ですか？

名倉奈央

新聞部さんの陸上部体験レポート、壁新聞で読んだけれど、感動しました。

高田環

ありがとうございます。

名倉奈央

あなたと仲のいい、相川さん？すごいわよねえ、素人同然だったのに、トレーニングを積んで、ひよっとしたら、今度の大会、出場するかも、なんですって？

高田環

はい。

名倉奈央

でも、惜しいわ。

高田環

え？

名倉奈央

彗星のように現れた相川藍さん。それはそれでいいんだけど、本当はもっとインパクトのあるニュースにできたはずなのにね。

高田環

どういことですか。

名倉奈央

率直に言いますよ。高田環さん、あなたをニュースにすればもっと盛り上がったのにね。

高田環

私、ですか。

名倉奈央

高田千明の妹にして、小学生時代、姉に勝るとも劣らない記録の持ち主。そんなサラブレッドのあなたが、なぜ新聞部に？

高田環

小学校と中学じゃレベルが違いますから。

名倉奈央

本当にそう思っている？

高田環

本当です。もういいですか。

環立ち去ろうとする。

名倉奈央

このままだと、あなたの相方の相川さん、お姉さんの千明さんに取られてしまうわね。

環、凍りつく。

名倉奈央

相川さんは、陸上の楽しさに目覚め始めている。今度の大会に出場したら、彼女、もう新聞部には戻ってこないでしょうね。

高田環

そんなことは……。

名倉奈央

ないと言い切れるかしら？

高田環

それは……。

名倉奈央

しかも、本来は千明さんの横には、あなたがいるはずだった。

高田環

私は！

名倉奈央

皮肉よねえ、尊敬する姉と親友が、あなたから離れていく。

高田環

お姉も藍ちゃんもそんな人じゃありません。

名倉奈央

そう、そうならいいんだけど。一番わかっているのはあなただものね。ごめんなさい、余計なことを言

って。

高田環

失礼します！

名倉奈央

二人の大会での活躍、祈ってるわね？

高田環

……。

環、下手へ退場。

林春香

いいんですか。

名倉奈央

あの子の心の中に妬みの炎がくすぶっていた。私はそれをかきたてただけ。あとは、あの子が勝手にやる

でしょう。

松田麻友

悪魔だ。

林春香

こわく。

名倉奈央

行くわよ。

春香・麻友

はい！

三人上手へ退場。

やがてとぼとぼと環が歩いてくる。

相川藍

環〜！

ジャージ姿の藍、走ってくると、環の周りをぐるぐると走り回る。

高田環

よ、特派員。

相川藍

いよいよ明日だよ。どうしようどうしよう。

高田環

落ち着かないなあ。

相川藍

今まで大会と名のつくものなんてさあ、町内会の花火大会ぐらいしか参加したことがないからさあ。ドツ

高田環

キドキだよ。

高田環

参加することに意義がある。

相川藍

おっ、いい言葉だねえ。(立ち止まる) そうだよ。僕は初心者なんだ。参加できるだけで十分だ。

高田環

ずいぶん謙虚だね。日本のウサインボルトじゃなかったっけ？

相川藍

いやー、僕、恥ずかしいよ。この3週間、陸上部のトレーニングを受けてみてさ、自分ができないということ

高田環

ことを嫌という程思い知らされた。その点、千明センパイは本当にすごい。

高田環

藍も、すごいよ。

相川藍

そう？おだてると、どこまでも登ってっちゃうよ？

高田環

それが藍じゃん。いいんだよ。いつもの藍で。

相川藍

うん。

高田環

(藍のシューズに気づく) シューズ、ボロボロじゃん。

相川藍

ああ？これ？うん。勲章みたいなの？

高田環

明日、本番で破けたりしたら大変だよ。

相川藍

ええ！どうしよう。

高田環

よかったら、これ使ってくれない？

相川藍

環、カバンからランニングシューズを取り出す。

相川藍

すごい、これどうしたの？

高田環

前に何回か履いただけだから。サイズ合うと思うよ。

相川藍

ありがとう！

高田環

明日、頑張つて。

相川藍

うん。

相川藍

下手から千明がやってくる。

相川藍

お疲れ様です！

高田千明

お疲れ。お、環のランニングシューズ？

相川藍

はい！

高田千明

それ、私が見立ててやったんだ。軽くて走りやすいんだよ。

相川藍

そうなんです。嬉しいなあ。

高田環

やっぱり返して！

相川藍

環、藍の手からシューズを奪うと上手へ走り去る。

相川藍

待って！

高田千明

(藍、環を追って上手へ)

高田千明

環く！なんだあれ？

高田千明

千明も小走りで上手へ。

高田千明

間。

環上手から出てくる。手にはシューズ。膝をつくど、カバンからハサミを取り出す。靴紐に切れ目を入れる。

藍の声

環く！

環、あわててハサミをカバンの中へ。藍、上手から走ってくる。

環、足早いだね。びっくりした。

高田環

小学校の時、徒競走じゃ、いつも一番だったから。

相川藍

へー。じゃあさ、明日の大会のあと、環も特派員として、陸上部に参加するというのはどう？

高田環

私は、おばあちゃんの手伝いがあるから。

相川藍

えー。残念。

高田環

それより、明日、大会が終わったら、お好み焼き食べにおいで。おごってあげる。

相川藍

嬉しいなあ。ありがとう。

高田環

これ。（シューズを差し出す）

相川藍

本当にいいの？

高田環

うん。でも走りにくいかも。

相川藍

そんなことないよ。

相川藍

藍、シューズを受け取って履いてみる。

高田環

うん、ぴったり。明日、頑張るから。

相川藍

うん。

高田環

じゃあ、また明日。

高田環

明日。

藍、下手へ歩いていく。

高田環

ねえ！

相川藍

うん？

高田環

ううん！頑張ってる！

相川藍

おう。

環、そのまま背景へ。

陸上部のウェアに着替えた千明、藍が出てくる。夏帆、清花、報道委員たちも出てくる。

河野夏帆

藍がここまでやるとは正直びっくりだ。

笹倉清香

100メートルの準決勝まで行くななんて、快挙よ。

河野夏帆

あとはこの400メートルリレーで、どれだけ他の選手についていけるかだ。

笹倉清香

アンカーの千明にバトンを渡しさえすれば、あとは千明がなんとかしてくれる。

林春香

なるほどー。

松田麻友

そうなんですわねー。

名倉奈央

落とせ〜。転べ〜！

合図の声

位置について、ヨーイ！

河野夏帆

ピストルの音。歓声が沸き起こる。

笹倉清香

最初のバトンパス！

林春香

うまい！

松田麻友

ぶっちぎりだ！

その調子！

河野夏帆

3人目！藍く！

笹倉清香

バトンパス、バトンパス！

松田麻友

よし！トップのまま！藍ちゃん！

林春香

そのまま、そのまま！

松田麻友

頑張つて！

河野夏帆

最後のパス！

笹倉清香

いけく！

スローモーションで現れる千明。バトンを受けるポーズ。藍が走ってくる。バトンを受け取るうとした瞬間、バランスを崩す。

全員

あ！

藍がバトンを渡し損なう。

見つめる新聞部員たち。バトンを拾って渡そうとする藍、衝撃音。倒れる藍。

怪我をした藍を突き刺すような照明。藍を囲む奈央・春香・舞友。3人の表情は見えない。不気味な光が

3人をおおう。

期待はずれ。

屈辱の最下位。

「怪我をした」女々しい言い訳

中里中学校の期待を一身に集めた昨日の連合体育大会最終種目400メートルリレー。

優勝候補筆頭の評判通り、スタートから他校を寄せ付けない速さでらくらく優勝と誰もが思ったその時、

アクシデントが。

松田舞友

林春香

名倉奈央

松田舞友

林春香

名倉奈央

名倉奈央

三走相川藍選手がバトンを渡し損なうというありえないミス。

高田環

違う！

林春香

三走に抜擢した高田千明選手の判断ミスも。

高田環

違う！

松田麻友

自分なら多少の遅れは挽回できるという慢心が、バトンパスを狂わせた。

高田環

違う！

名倉奈央

エリート選手のだらしない虚栄心が、最後の最後にとんだ汚点を残すことになった。

高田環

違う！

松田舞友

転んだ拍子に相川選手はアキレス腱断裂。

名倉奈央

選手生命は絶望。

林春香

自業自得とはこのこと。

高田環

違う違う違う！

名倉奈央

(拍手をする) 素晴らしい！ねえ、どうやったの？これ以上ない幕切れだった。

高田環

人が犬を嘔むとはこのことねー。おかげでアドレナリンは大評判！ありがとう。

高田環

こんなこと願っていない！

名倉奈央

いいえ。これで、相川さんはあなたのところに戻ってくる。もう陸上部にはいられないもの。

高田環

これは夢、悪い夢だ。

名倉奈央

現実よ。お姉ちゃんもあなたに戻ってくる。ゼーんぶ、あなたが望んだ通り。

高田環

はい、どうぞ。

名倉奈央

奈央、環にアドレナリンを手渡す。報道委員と藍が静かに退場する。

アドレナリンを破り捨てる環。

河野夏帆 あれから藍、学校来てない。

笹倉清香 もう1週間か。

河野夏帆 アキレス腱完全断裂って、結構大変なんだね。

笹倉清香 手術は無事済んで、家に戻ったっていうし、そろそろ顔出すんじゃない？

高田環 私のせいなんです。

河野夏帆 あん？あのランニングシューズ？

笹倉清香 あんたのシューズを履いて走ったんだって？

河野夏帆 うるわしい友情じゃないか。

高田環 違います。そんなじゃないんです、私！（二人の怪訝そうな顔を見て、それ以上言えない）新聞、発

行できなくなってしまっ……。

河野夏帆 それはまた別の話でしょ。

高田環 いいえ、そうじゃないんです。

笹倉清香 まだチャンスはあるよ。

千明がやってくる。

高田千明 よっ、暇つぶし部。

河野夏帆 千明、練習は？

高田千明 今休憩。藍ちゃんが顔を出してくれてさ。

三人 藍が！

高田千明 うん。ほら、来た。

松葉杖をついた藍がゆっくりとやってくる。山本弥生が藍の荷物を持っている。

河野夏帆

藍！

笹倉清香

藍！

高田環

藍ちゃん！

相川藍

恥ずかしながら、相川藍、ただいま戻りました。

河野夏帆

おかえり。

笹倉清香

おかえり。

相川藍

ただいまです。環、ただいま。

高田環

ごめんなさい！

相川藍

環のシューズ、すっごい走りやすかった。ありがとね。

高田環

そうじゃないの！シューズの紐に、私切れ目を入れて、だから！

相川藍

こけたって？あれは単に疲れが出ただよ。だって、100メートルさ、予選だけ走ればいいと思って

たら、まさかの準決勝まで行ったでしょ。そうしたら、もう膝がガクガクでさー。400メートルリレー、

必死に粘ったけど、もう限界だった。それでよろって。

高田環

嘘よ！

相川藍

嘘じゃないよー。だって、靴紐、新しいのに取り替えてたし。

高田環

え？

相川藍

だって前日、環スッゲー怖い顔してたんだよー。靴持って走ってた時。あと追いかけたら、ハサミを

高田環

出してたの見えたしさー。こりゃ、何かやったなーって。

ごめんなさい！藍ちゃんが、どんどん遠くに行っちゃう気がして、それで！ごめんなさい！

相川藍
許して、あげない。

河田夏帆

藍！

相川藍
環だって、許してほしいなんて、思ってないよね。

高田環
うん……。 (藍が何を意図しているのか計り兼ねている)

相川藍
一週間もベッドの上で寝ていて、僕、しみじみ感じたんだ。走りたいって。それから、この思いを誰かに伝えたいって。

高田環
藍ちゃん……。

相川藍
(ノートを取り出す) この一週間、今までのことを振り返って書いてみた。これを環、記事にして。

高田環
私で、いいの？

相川藍
環だから、いいんだ。それから、(カバンをゴソゴソやってシューズを引っ張り出す) これ。

高田環
藍ちゃん？

相川藍
誤解しないでよ。僕は必ずもう一度トラックに立つ。そして、また走る。

高田環
……。

相川藍
だけど、環にも走ってほしい。

高田千明
ばあちゃんのこと心配しないで。私も助けるから。妹のくせに水臭いぞ。

高田環
お姉。

相川藍
これは、僕からのバトンだよ。受け取って。

相川藍
藍、シューズを差し出す。

相川藍
僕の思いをあなたに託す。

相川藍
環、シューズを受け取る。間。

高田環

私、……走る！

と、下手から報道委員会の面々が飛び出してくる。

名倉奈央

これはニユースです！ぜひ、アドレナリンで特集を！

河田夏帆

おっと、盗み聞きはお断りだよ。

笹倉清香

この件に関しては、新聞部の独占ニユースだから。

名倉奈央

そこをなんとか。

河田夏帆

じゃあ、「アドレナリン」の名前を「なかちゅう新聞」に変更したら、認めてあげる。

名倉奈央

ええっ！

林春香

廃部させるつもりが乗っ取られましたね。

松田麻友

悪は栄えたためしなし、ですね。

名倉奈央

でも……。

林春香

いいじゃないですか、この一週間、アドレナリンの評判最悪でしたから。

松田麻友

「メガネ女子の学習相談」って誰も読んでませんでしたから。

名倉奈央

うるさいわね。

林春香

やっぱり陸上部ネタが一番です。

高田千明

だったら、あんたらも走ってみない？

春香・麻友

私たちも！？

河田夏帆

あ、それいいね。私も走る。

笹倉清香

私も！

春香と麻友顔を見合わせているが、頷く。

高田千明

よし！で、委員長、あんたは？

名倉奈央

私は、その……。

笹倉清香

そうだったそうだった、この人うんち。

名倉奈央

運動音痴って言いなさいよ。

高田千明

なあに、全部まとめて私が面倒見てやるよ。

さ、並んで並んで。ここがスタートライン。

千明みんなを並ばせる。

高田千明

じゃあ、いくよ。藍ちゃん。

相川藍

はい！位置について、ヨーイ！

全員

ドン！

ストップモーション。幕。